

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

短期大学部生の中学英語力及びそれとTOEFL・TOEIC スコアとの相関関係に関わる分析

メタデータ	言語: jpn 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2016-10-18 キーワード (Ja): 中学英語, 中学英文法, TOEFL スコア, TOEIC スコア キーワード (En): 作成者: 柗元, 弘文 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学短期大学部
URL	https://doi.org/10.18956/00007711

短期大学部生の中学英語力及びそれと TOEFL・TOEIC スコアとの相関関係に関わる分析

柘 元 弘 文

要 旨

本研究の目的は、筆者が本学短期大学部において担当する英語必修科目の受講生の英語基礎力、とりわけ中学英語力に焦点を当て、中学文法力や語彙力の弱点を明らかにすると共に、それと TOEFL 及び TOEIC スコアとの相関関係を分析し、その結果を今後の授業計画に活かしていくことである。その結果を踏まえて、留学・編入・就職に向けて TOEFL 及び TOEIC のスコアアップが喫緊の課題となっている本学短期大学部生をより効果的に指導するための方向性を示すことを狙うものである。文法・訳読中心の英語教授法への反省から、コミュニケーションアプローチへと大きく舵が切られてきている日本の英語教育の流れの中で、中学英文法を中心とする基礎的な文法力の大切さを今一度認識し、その弱点の洗い出しと克服による基礎力の養成が TOEFL 及び TOEIC スコアの伸長にも結果的につながっていく可能性があることを明らかにしていきたい。

キーワード：中学英語、中学英文法、TOEFL スコア、TOEIC スコア

1. はじめに

本学短期大学部生は、TOEFL・TOEIC スコアを伸ばそうと日々奮闘している。TOEFL で一定のスコアを超えることが、長期留学・本学3年次編入の必要条件の一つになっていること、TOEIC においても、一定のスコアを超えることが本学3年次編入の必要条件の一つとなっていること、また就職の際にも高スコアが必要とされる場合が多いことがその背景にある。ところが、TOEFL・TOEIC のスコアが思うように伸びず、またその原因もわからずに悩む学生も多い。また、習熟度別のクラス編成になってはいるものの、授業についていけずに単位を落とす学生も散見されるのが実態である。日々の授業を通じてその原因の一つは英語基礎力、とりわけ中学3年間に習得すべき内容が十分に身につけていないことではないかと推察するに至った。

そこで、2015年度秋学期に短期大学部において担当した英語必修科目3クラス（Integrated English 2 クラス及び TOEIC 演習 1 クラス）の1年生を対象に、中学英語の習得状況を把握し、中学英語力を「中学英語文法力」と「中学英語総合力」に分け、それぞれの検証・分析を行う

と共に、「中学英語総合力」と TOEFL・TOEIC スコアとの相関関係を検証することとした。相関関係の検証も「中学英語文法力」と「中学英語総合力」のそれぞれについて行うのが理想的ではあるが、本稿では、「中学英語総合力」に「中学英語文法力」も含まれると考え、「中学英語総合力」に的を絞って検証することとする。本研究を通して、本学短期大学部生の中学英語力を分析した後、「中学英語総合力」と TOEFL・TOEIC スコアとの相関関係を明らかにし、その結果を今後の英語授業デザインにどのように活かしていくかを考察したい。

2. 中学英語力の分析

2. 1 「中学英語文法力」と「中学英語総合力」の区別

本稿においては、中学英語力を「中学英語文法力」（以下中学英語文法力）と「中学英語総合力」（以下中学英語総合力）の2つに分けて考えることとする。今回、中学の学習内容の定着度を測るため、文法項目別に日本語を英文に訳す問題を作成した。従って、狙いとする文法項目は正解しながら、それ以外の箇所でも誤り、英訳そのものは正解ではない答えも散見された。例えば、「受身」の文法項目が理解できているかを問う問題である「点字は多くの人々によって使用されている」の英訳においては、“TENJI is used by many people.” とした学生が多く、この場合、「is used by」すなわち「be 動詞＋過去分詞」に動作の主体者を by によって表現するという「受身」の基本形は理解しているが、「点字」を英語に訳すという語彙力が不足していることを意味する。この学生はこの問題に関しては、中学英文法力はあるが、中学英語総合力はないとする。従って、この問題は文法項目正解率が75%になっているのに対して、英語訳そのものの正解率は3%ときわめて低くなっているのである。狙いとする文法項目は正解しても、その他の文法項目のミスで正しい英語訳が出来ない場合も出てくるが、その場合でも、ここでは分析を単純化するために、便宜的に中学英語総合力がないと看做すこととする。換言すれば、狙いとする文法項目別の正答率＝中学文法力正答率、英語訳正答率＝中学英語総合力正答率とする。今回実施した中学英語力テストの項目別設問内容及び設問ごとの文法項目・英語訳全体の正答率は「表6：中学英語力テスト内容及び正答率」の通りである。

2. 2 中学英語力の測定方法

2015年度秋学期に短期大学部において担当した英語必修科目（Integrated English, TOEIC 演習）1年生3クラスの学生を対象に、中学英語の習得状況を調べるため、テストを実施した。New Horizon English Course3の「Book1-3 基本本文のまとめ」の中から、文法項目ごとに基本例文を選出し、一部変更を加えた上で、日本語を英文に直す問題を50問作成した。本テストを、2015年度秋学期の授業中に担当した3クラスを対象に実施した。履修学生数71名に対して、

受験者数は68名であった。実施した時期は、12月12日の必修 TOEFL の前後とした。これは TOEFL スコアとの相関関係分析をより正確に行うためである。

2012年度に中学校で全面的な実施が始まった新学習指導要領によると、外国語科目の中学校における目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」(文部科学省、2003、p.6)とある。さらに、それは、「単に外国語の文法規則や語彙などについての知識を身に付けさせるだけではなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力の基礎を養うことを意味する」(文部科学省、2003、p.7)として、文法や語彙も単に知識として知っているだけではなく、実際にアウトプットして使えるレベルまで習得することを狙っている。従って、日本文を英文にするという形式で、文法や語彙の知識を使えるかを「書く」というアウトプットで測る問題とした。

2. 3 中学英文法力の分析

中学英文法力については、3クラス68名の平均正答率は75%であった。これを文法項目別に正答率の低い順に一覧表にまとめたのが「表1：中学英語力テスト・分法項目別正答率」である。ここでは、具体的な誤答例をあげながら文法項目別に検証する。

表1 中学英語力テスト・文法項目別正答率

	文法項目	正答者数	総受験者数	正答率
(1)	〈間接疑問文〉	31	68	46
(2)	〈後置修飾〉	34	68	50
(3)	〈比較表現〉	36	68	53
(4)	〈一般動詞 (過去形)〉	41	68	60
(5)	〈疑問詞〉	44	68	65
(6)	〈冠詞〉	45	68	66
(7)	〈現在完了形〉	48	68	71
(8)	〈関係代名詞〉	49	68	72
(9)	〈不定詞〉	50	68	74
(10)	〈動名詞〉	51	68	75
(10)	〈受身〉	51	68	75
(11)	〈直接目的語と間接目的語〉	53	68	78
(12)	〈接続詞〉	54	68	79
(13)	〈未来表現〉	55	68	81

	文法項目	正答者数	総受験者数	正答率
(14)	〈進行形〉	58	68	85
(15)	〈助動詞〉	61	68	90
(16)	〈一般動詞（現在形）〉	62	68	91
(17)	〈代名詞〉	65	68	96
(18)	〈形容詞・副詞〉	66	68	97
(18)	〈be 動詞（現在形、過去形）〉	66	68	97
	平均	51	68	75

2. 3. 1 正答率60%未満の文法項目

正答率60%未満の文法項目が3項目あった。それらを正答率の低い順に詳細に検証していく。

(1) 「間接疑問文」

最も正答率が低かったのが、「間接疑問文」で、46%であった。「私はあなたの意味するところが分からない」を英訳する問題で、“I don't know what do you mean.”とした学生が5名いた。間接疑問文では、語順が平常文に戻るということという基本的なルールを理解していない学生が多いことが判明した。また、“I do not know your mean.”とした学生も5名おり、全体として半分以上の学生が正しい間接疑問文を作成できなかった。

(2) 「後置修飾」

次に正答率が低かったのは、「後置修飾」で正答率49%であった。「70年前に撮られた1枚の写真」という過去分詞で前の名詞を後ろから修飾する表現を英語に直せない学生が68%いた。“This is a picture took seventy years ago.”とした学生が7名いた。また、「これは私がアメリカで買った本です」を英訳する問題も、34%の学生が関係代名詞の目的格で後ろから修飾する表現を正確に訳せなかった。“This is a book I bought it in America.”とした学生が2名いた。これは、「関係代名詞」の目的格45の問題とも重複するが、「後置修飾」という項目の中で、関係代名詞以外の表現方法も含む幅広い表現方法が使えるかを試す問題としてあえて別項目とした。

(3) 「比較表現」

3番目に正答率が低かったのが「比較表現」で53%であった。中でも、最上級を理解できていない学生が非常に多く、79%の学生が、「全ての～のなかで最も……」という表現を英語で正確に書き表せないことが判明した。「Godzillaは、全ての怪獣の中で最も強い」という日本文を英訳する問題において、最も多かった誤答は、“the strongest in all monsters”で4名（6%）、

次いで“strongest all of monsters”が2名(3%)、さらに“the strongest than all monsters”が1名(1%)であった。

2. 3. 2 正答率60%以上70%未満の文法項目

正答率60%以上70%未満の文法項目が3項目あった。それらを正答率の低い順に詳細に検証していく。

(4) 「一般動詞(過去形)」

全体を通して4番目に正答率が低かった項目は、「一般動詞(過去形)」で、正答率は61%であった。とくに目立った誤りは、過去疑問文「あなたは昨日英語を勉強しましたか」の英訳問題において、“Did you studied English yesterday?”とした学生が4名(6%)、“Do you studied English yesterday?”とした学生が1名(1%)、“Do you study English yesterday?”とした学生が1名(1%)おり、基礎的な過去疑問文の知識が欠落している学生が合計6名(9%)と1割近くもいることが判明した。

(5) 「疑問詞」

全体を通して5番目に正答率が低かったのは、「疑問詞」を使った疑問文を作成する問題で、正答率65%であった。「あなたはCDを何枚持っていますか」を英訳する問題において、How manyのあとの名詞を複数形にせず、単数形のままにしていた学生が6名(約9%)、語順を間違えて、“How many do you have CDs?”とした学生が2名(約3%)いた。また、「これは誰の鞆ですか」という日本語を、“Whose is this bag?”とした学生が5名(約7%)と多く見られた。また、“Who is this bag?”とした学生が3名(4%)、“Whose this bag?”とした学生が2名(3%)いた。

(6) 「冠詞」

6番目に正答率が低かった項目は、「冠詞」で、正答率は64%であった。「私は大学生です」の英訳で“I am college student.”として、冠詞をつけない学生が44%、「私は5年前中学生でした」の英訳において、“I was junior high school student five years ago.”として、冠詞を付けない学生が47%と半数近くにのぼり、可算名詞にaを付けるという基本事項が身につけていないことが明らかになった。また、「それは一匹の動物です」の英訳問題においては、“a animal”とした学生が9名(13%)、“an animals”が1名(1%)、“a one animal”が1名(1%)おり、“an”の正しい用法が身につけていない学生が16%もいることがわかった。さらに、「私はギターを弾きます」を英訳する問題において、“a guitar”とした学生が7名(10%)、

冠詞を付けなかった学生が10名（15%）おり、楽器の前には慣用的に the を付けることを理解していない学生が26%もいることが判明した。

2. 3. 3 正答率70%以上80%未満の文法項目

正答率70%以上80%未満の文法項目が、7項目あった。これらの7項目を、正答率の低い順に詳細に検証する。

(7) 「現在完了形」

7番目に正答率が低かったのは、「現在完了形」で、71%であった。「彼女は日本に5年間住んでいる」を英訳する問題において、“She has been lived in Japan for five years.”とした学生が12名（18%）いた。また、「あなたはアメリカに行ったことがありますか」の英訳において、“Have you ever went to America?”とした学生が2名（3%）いた。さらに、「あなたは宿題をもう終えましたか」の英訳において、“Have you already finished your homework?”とした学生が10名おり、疑問文では「もう」は、“yet”になることを習得していない学生が15%にもものぼった。

(8) 「関係代名詞」

8番目に正答率が低かったのは、「関係代名詞」で、72%であった。「トムはこの本を書いた科学者です」を英訳する問題において、“Tom is the scientist who writes this book.”として、関係代名詞の中の時制を過去形にせず現在形にした学生が7名（10%）いた。これは関係代名詞節を正確に英訳できていないとみなし、関係代名詞の項目のミスとみなすことにした。また、「これは我々を幸せにする映画です」の英訳において“This is a movie which make us happy.”として主格の関係代名詞節においても三人称単数現在のsは必要であるとの基本が身につけていない学生が9名（13%）いた。さらに、「これは彼女が昨年書いた本です」の英訳において、“This is a book that written by her last year.”とした学生が3名（4%）、“This is a book that (which) is written by her last year.”とした学生が3名（4%）いた。

(9) 「不定詞」

9番目に正答率が低かった項目は、「不定詞」で、正答率は74%であった。「私にはすべき仕事がたくさんある」を英訳する問題において、“I have to a lot of work.”とした学生が3名（4%）、“a lot of work have to do”とした学生が2名（3%）いた。また、「私はうちわの使い方を知っている」の英訳において、“I know that how to use a fan.”、“I know how to use of a fan.”とした学生がそれぞれ1名いた。さらに、「私が日本語を理解することはむずかし

い」を英訳する問題において、“I am difficult to understand” とした学生が2名（3%）、“I difficult to understand” とした学生が2名（3%）いた。

(10) 「動名詞」と「受身」

10番目に正答率が低かった項目は、「動名詞」と「受身」で、正答率は75%であった。まず、「動名詞」において、「私はこの詩を書き終えた」を英訳する問題において、“I have finished to write this poem.” とした学生が4名（6%）、“I have finished write this poem.” とした学生が2名（3%）いた。“finish” という動詞は目的語に動名詞をとる動詞であることを理解していない学生が6名（9%）と、1割近くもいることがわかる。さらに、「クリスマスソングを歌うことは楽しい」を英訳する問題において、“It’s fun singing a Christmas song.” とした学生が2名（3%）いた。次に「受身」項目の「点字は多くの人々によって使用されている」を英訳する問題において、“is used for” として、by としなかった学生が3名（4%）、“were (was) used by” として、時制を間違った学生が6名（9%）いた。

(11) 「直接目的語と間接目的語」

11番目に正答率が低かった項目は、「直接目的語と間接目的語」であり、正答率78%であった。2つの目的語を含み慣用的に良く使われる表現である「あなたのパスポートを私に見せて下さい」の英訳において、“Can I show your passport?” とした学生が2名（3%）、“Please watch me your passport.” とした学生が1名（1%）、“Please look me your passport.” とした学生が2名（3%）いた。

(12) 「接続詞」

12番目に正答率が低かった項目は「接続詞」で、正答率は79%であった。「私はその計画に反対です。なぜならば我々は我々の公園を必要とするからです」を英訳する問題において、“I am against the plan. Because we need our parks.” 等とピリオドで区切り、Because で文章を始めて、Because 以下が、節となり、文章になっていないものが、19件（28%）あった。句、節、文の違いを理解していないことが、誤りの原因と思われる。

2. 3. 4 正解率80%以上の項目

最後に、正解率80%以上の項目、8項目の分析を行う。

(13) 「未来表現」

13番目に正答率が低かった項目は、「未来表現」で、正答率81%であった。「私は明日琵琶湖

を訪れる予定である」を英訳する問題において、未来を表す副詞である「明日」を訳さなかった学生が10名（15%）、“in tomorrow” が1名（1%）いた。また、「私はあなたに明日彼女の写真をみせてあげよう」を英訳する問題において、“I show you her picture tomorrow.”として、“will” をつけなかった学生が1名（1%）いた。

(14) 「進行形」

14番目に正答率が低かった項目は「進行形」で、正答率85%であった。「彼は今何をしていますか」という日本語を英文に直す問題において、“What does he doing?”とした学生が4名（6%）、“What he doing?”として、isを記載しなかった学生が3名（4%）、“What he is doing now?”として、疑問文の語順にしなかった学生が1名（1%）、“Does he doing now?”とした学生が1名（1%）いた。加えて、“Is he doing now?”として疑問詞を記載しなかった学生が4名（6%）いた。また、「彼は泳いでいるところです」を英訳する問題において、“He swimming”としてisを記載しなかった学生が2名（3%）いた。「私はそのとき1冊の本を読んでいるところだった」を英訳する問題において、「そのとき」という表現を記載しなかった学生または、誤った学生が8名（12%）、“I just read a book”とし、単純過去にして進行形にしなかった学生が2名（3%）、“I was read a book”とした学生が1名（1%）、“I am reading a book”とし、現在進行形にしてしまった学生が1名（1%）、“I reading a book”とし、amを記載しなかった学生が1名（1%）いた。

(15) 「助動詞」

15番目に正答率が低かった項目は、「助動詞」である。正答率は90%であった。特に「あなたは食べ過ぎてはいけない」を英訳する問題において、“You don't have to eat.”とした学生が9名（13%）いた。have to = 「～しなければならない」を否定すると、「～する必要はない」という意味になり、この日本語の意味にはならないことを理解していない学生が1割以上もいることが分った。これと類似した誤りであるが、“haven't to eat”とした学生が3名（4%）いたことを考えると、合計で18%という2割近い学生が、禁止の意味の助動詞を正しく使いこなせていないことがわかる。さらに、“must not to eat”、とした学生が1名（1%）おり、助動詞のあとに動詞の原形がくるという基本的な文法知識が欠落していることがわかる。

(16) 「一般動詞（現在形）」

16番目に正答率が低かった項目は、「一般動詞（現在形）」で、正答率は91%であった。「私は野球が好きです」及び「彼は日本が好きです」の英訳問題は、それぞれ正答率100%、96%とほとんどの学生が正解した。一方、「Maryは、日本語を話しません」という否定文の日本

文を英文に直す問題において、“Mary don't speak Japanese.”とした学生が7名(10%)、また、“Mary isn't speak Japanese.”が1名(1%)おり、そのほかの誤りも含めると全体の正答率は79%にとどまり、21%が基本的な3人称単数の否定文ができないということがわかった。

(17) 「代名詞」

17番目に正答率が低かった項目は、「代名詞」で、正答率は96%であった。「代名詞」については、「彼は私たちの先生です」を英訳する問題において、“He is an our teacher.”とした学生が3名(4%)、“He is a our teacher.”とした学生が1名(1%)、“He is a my teacher.”とした学生が1名(1%)おり、合計5名(7%)が所有格の代名詞の前に数詞(冠詞)をつけてしまっている。また、「その鉛筆は私のものです」を英訳する問題において、“The pencil is myself.”とした学生が1名(1%)いた。「あなたは彼を知っていますか」を英訳する問題において、“Do you know he?”とした学生が1名(1%)おり、目的格と主格の代名詞の区別が出来ない学生もいた。

(18) 「形容詞・副詞」と「be動詞(現在形・過去形)」

18番目に正答率が低かった項目は、「形容詞・副詞」と「be動詞(現在形・過去形)」で、正答率は97%であった。「形容詞・副詞」の項目の「英語はおもしろい」を英訳する問題において、“English is interested.”とした学生が1名(1%)おり、物が主語の場合 interesting、人が主語の場合 interested となるという区別が出来ない学生がいることが分った。また、「私は一生懸命に勉強する」を英訳する問題において、“I am hard study.”とした学生が2名(3%)、“I hard to study English”とした学生が1名、“I study do my best”とした学生が1名(1%)おり、一般動詞の使用法が理解できていない学生と「一生懸命に」と言う副詞が英訳できない学生がいることが分った。「be動詞(現在形・過去形)」の項目において、「私は5年前中学生でした」を英訳する問題において、“before five years ago”とした学生が2名(3%)、“before five years”とした学生が3名(4%)、“in five years ago”が2名(3%)、“for five years ago”が1名(1%)、“for five years”が1名(1%)、“when five years ago”が1名(1%)おり、「5年前」という過去を表す副詞を正確に英文に出来ない学生が合計で10名(15%)いた。また、“I were”が1名(1%)“I am”が2名(3%)で合計3名(4%)が、過去形のbe動詞を正しく使えなかった。

2. 4 中学英語総合力の分析

次に中学英語総合力について分析する。日本語を完全に英訳するためには、中学英文法力のみならず、語彙力等も含む総合的な中学英語力が要求される。従って、英語訳全体の正答率が中

学英語総合力を表し、それは当然中学文法力よりも低く、68名全体で正答率は61%であった。学生が犯した間違いを具体的に挙げつつ、短期大学部生全体の中学英語総合力の不足している点を検証する。

2. 4. 1 語彙力・表現力不足

基本的な語彙力や表現力が不足していることがわかった。その具体的な例は以下の通りである。

- (1) 「私は昨日その橋を歩いて渡った」の英訳において「橋を歩いてわたる」という日本語を英語で表現できない学生が30名（44%）にもものぼり、基本的な表現力の不足が明らかになった。“walk the bridge”とした学生が18名（26%）、“acrossed”とした学生が8名（12%）おり、これらが典型的な誤答であった。
- (2) 「私はギターを弾きます」を英訳する問題において、guitarのスペルミスが22名（32%）と非常に多かった。正しい冠詞の使い方が出来ないことと合わせて、本問題の正答率は40%と低くなった。基本的な単語を正しく書けないことが明らかとなった。
- (3) 「点字は多くの人々によって使用されている」を英訳する問題において「点字」に当たる英単語を知らない学生が66名（97%）で、正しく書けた学生はわずかに2名（3%）であった。これは、中学3年のNew Horizen English Courseに出てくる単語であり、中学レベルの語彙力不足と言えよう。
- (4) 「私はその計画に反対です。なぜならば我々は我々の公園を必要とするからです」を英訳する問題において、「反対する」を“disagree”、“don't agree”と表現しながらも、その後でwithをつけていない学生が35名（51%）と半数以上もいた。さらには、“I against the plan”として、be動詞amを書き落としている学生が7名（10%）いた。「～に反対する」という英語表現を正確に英訳できない学生が多いことが明らかとなった。
- (5) 「私は明日琵琶湖を訪れる予定である」を英訳する問題において、“visit”が他動詞だということを理解していない学生が12名（18%）見られた。visit toとした学生が9名、visit inとした学生が2名、visit ofとした学生が1名いたのである。visitという基本的な単語を正しく使えない学生が20%いることが判明した。また、「私はあなたに明日彼女の写真をみせてあげよう」を英訳する問題において、「見せる」を“I will see her pictures”として、正しく英文で表現できない学生が3名（4%）いた。

- (6) 「あなたは食べ過ぎてはいけない」を英訳する問題において「食べ過ぎる」という英語表現が分らない学生が多く見られた。典型的な誤答例として、“too eat” 10名 (15%)、“eat over” 3名 (4%) が挙げられる。

2. 4. 2 「可算名詞と不可算名詞」「冠詞・数詞」の理解不足

文法項目の「冠詞」の定着度合いを測る問題以外においても、冠詞・数詞の誤りは多数見受けられた。これも、「英語総合力」の得点を押し下げる要因となった。その具体例は以下の通りである。

- (1) 「私にはすべき仕事がたくさんある」を英訳する問題において、a lot of works, many works, many work 等として、不可算名詞を many と共に用いた誤り、複数形にするための s をつけた誤りが合計17名 (25%) に見られた。ここでは不定詞の文法項目の習得度合いを測る問題ではあるが、可算名詞と不可算名詞の区別や数詞との組み合わせが身につけていないことも明らかとなった。
- (2) 「私はゲームをするためにコンピュータを使う」を英訳する問題において、“I use to computer to play the game.”、“I use computer for play game.” とした学生がそれぞれ1名いた。また、computer に冠詞をつけなかった学生が27名 (40%)、game に冠詞をつけなかった学生が28名 (41%) いた。やはり、ここでも約60%の学生が、可算名詞に冠詞もつけず、複数形の s もつけないという誤りを犯しているのである。
- (3) 「クリスマスソングを歌うことは楽しい」を英訳する問題においても、“christmas song” を、冠詞もつけず、また複数形にもせずに使用した学生が26名 (38%) と4割近くに上り、可算名詞と不可算名詞の区別や意識、冠詞の使い方、複数・単数の区別などが、大きな弱点の一つであることがここでも浮き彫りになったといえる。

3. 中学英語総合力と TOEFL スコアとの相関分析

次に、中学英語総合力と2015年12月実施の必修 TOEFL スコアとの相関関係について分析する。中学英語力テストの得点によって8割以上、7割以上8割未満、6割以上7割未満、5割以上6割未満、5割未満の5つの階層に分け、それぞれの層での中学英語力テスト平均点と TOEFL トータルスコアの平均点、セクション毎の平均点、及び伸長度（4月実施の必修 TOEFL との差）の平均点との階層別相関関係を検証する。その結果を一覧表に取りまとめたも

のが、「表2：中学英語総合力階層別 TOEFL スコアと伸長度合」及び「表3：中学英語総合力と TOEFL スコアとの相関関係（階層別）」である。

表2 中学英語力階層別 TOEFL スコアと伸長度合

中学英語力テスト 得点層	中学英語 平均点	TOEFL 平均点	Section 1 平均点	Section 2 平均点	Section 3 平均点	伸長度合
8割以上	42	469	45	51	49	54
7割以上 8割未満	36	438	46	44	36	27
6割以上 7割未満	32	437	42	42	41	28
5割以上 6割未満	27	420	43	39	49	12
5割未満	20	419	42	38	37	15

表3 中学英語力と TOEFL スコアとの相関関係（階層別）

	TOEFL 平均点	Section 1 平均点	Section 2 平均点	Section 3 平均点	伸び率
相関係数	0.9075986	0.75732805	0.93285229	0.32522358	0.86838304
標本数 n	5	5	5	5	5
t 値	3.744309	2.0008669	4.48495	0.595687	6.116375
自由度	3	3	3	3	3
p 値	0.033245958	0.13920898	0.02067569	0.59333261	0.00878412
	p<0.05	p>0.05	p<0.05	p>0.05	p<0.05

3. 1 中学英語総合力と TOEFL トータルスコアとの相関関係

中学英語総合力と TOEFL トータルスコアとの相関関係をピアソン相関係数で検証すると、相関係数0.90と高い相関関係が見られる。有意水準5%で、p 値=0.03324<0.05となり、有意である。高い TOEFL トータルスコアを獲得するためには、英語の基礎力としての中学英語総合力が重要となってくると推察される。

3. 2 中学英語総合力と TOEFL セクション1スコアとの相関関係

中学英語総合力と TOEFL セクション1スコアとの相関関係をピアソン相関係数で検証すると、相関係数0.76と比較的高い相関関係が見られる。但し、有意水準5%で、p 値=0.1392>0.05となり、有意とはいえない。セクション1は、Listening 問題であるが、ここでは中学英語総合力との有意な相関関係は確認できなかった。

3. 3 中学英語総合力と TOEFL セクション 2 スコアとの相関関係

中学英語総合力と TOEFL セクション 2 スコアとの相関関係をピアソン相関係数で検証すると、相関係数0.93と高い相関関係が見られる。有意水準 5 %で、 p 値 = 0.02067 < 0.05 となり、有意である。セクション 2 は、Structure and Written Expression で文法問題が中心である。ここでは中学英語総合力が高い学生が、TOEFL セクション 2 においても、高いスコアを獲得できることが明らかとなった。

3. 4 中学英語総合力と TOEFL セクション 3 スコアとの相関関係

中学英語総合力と TOEFL セクション 3 スコアとの相関関係をピアソン相関係数で検証すると、相関係数0.33と高い相関関係は見られない。セクション 3 は、Reading 問題であるが、ここでは中学英語総合力との有意な相関関係は確認できなかった。

3. 5 中学英語総合力と TOEFL スコア伸長度との相関関係

中学英語総合力と TOEFL スコア伸長度との相関関係をピアソン相関係数で検証すると、相関係数0.86と高い相関関係が見られる。有意水準 5 %では、 p 値 = 0.00878 < 0.05 となり、有意との結果となった。トータルスコアやセクション 2 スコアとの相関関係ほど強くはないにしても、依然として高い相関関係はあるといえよう。

3. 6 まとめ

中学英語総合力と TOEFL トータルスコア及びセクション 2 との間にはそれぞれ非常に高い相関関係が見られた。また、トータルスコアの伸長度合いの間にも、高い相関関係が見られた。このことから、海外大学の授業についていける高度な英語力があるかどうかを測定する TOEFL においても、中学英語総合力は必要不可欠なものであることが裏付けられたといえよう。鳥飼 (2002) は、TOEFL 日本人受験者の年代別分析を行い、最も得点が高いのは31-40歳で、最も低いのは16-18歳としている。この若い受験者の際立った弱点は、文法と読解であるとの分析を行っている。今回のデータ分析はこの分析と軌を一にするものといえ、TOEFL における中学英語総合力の重要性を示唆するものといえよう。と同時にコミュニケーション重視の教育方針が、文法はやらなくてもいいという文法軽視ないしは不要論とすりかえられ、若い世代の英語総合力が落ちている可能性を示唆しているようにも思われる。斉藤 (2000) は、ともかく文法と読解を教えられた世代は、何とか英語の総合力を保っているが、オーラルコミュニケーション重視の教育過程導入後の世代は、総合的な英語力そのものが低下しているとの懸念を表明している。

4. 中学英語総合力と TOEIC スコアとの相関分析

中学英語総合力と TOEIC (IP) スコアとの相関関係について検証する。TOEIC は、11月の学内 TOEIC を受験した31名を分析対象とした。TOEFL の場合と同様に、中学英語総合力テストの得点によって8割以上、7割以上8割未満、6割以上7割未満、5割以上6割未満、5割未満の5つの階層に分け、それぞれの層での中学英語総合力テスト平均点と TOEIC トータルスコアの平均点、リーディングセクションの平均点との階層別相関関係を検証する。その結果を一覧表にまとめたものが、「表4：中学英語総合力階層別 TOEIC スコア」及び「表5：中学英語総合力と TOEIC スコアとの相関関係 (階層別)」である。

表4 中学英語総合力階層別 TOEIC スコア

中学英語力テスト総合力得点層	中学文法	TOEIC 総合	Listening	Reading
8割以上	43	493	278	216
7割以上8割未満	37	470	282	188
6割以上7割未満	32	472	267	205
5割以上6割未満	27	397	239	158
5割未満	19	395	245	150

表5 中学英語総合力と TOEIC スコアとの相関関係 (階層別)

	TOEIC 総合	Listening	Reading
相関係数	0.9031220	0.842036	0.8850120
標本数 n	5	5	5
t 値	3.643050	2.7037300	3.292512
自由度	3	3	3
p 値	0.03566544	0.073553432	0.04599115
	p<0.05	p>0.05, p<0.10	p<0.05

4. 1 中学英語総合力と TOEIC トータルスコアとの相関関係

中学英語総合力と TOEIC スコアとの相関関係をピアソン相関係数で検証すると、TOEFL トータルスコアと同等の0.90という高い相関関係があることが分かった。有意水準5%で、p 値 = 0.03566 < 0.05 となり、有意である。TOEIC においても高いトータルスコアを狙うためには、中学英語力が必要とされることが明らかとなった。

4. 2 中学英語総合力と TOEIC リーディングセクションスコアとの相関関係

次に、中学英語総合力と TOEIC リーディングセクションのスコアとの相関関係をピアソン

相関係数で検証すると、相関係数0.89と高い相関関係が認められる。これは、有意水準5%で、 p 値 = 0.04599 < 0.05 となり、有意な相関係数である。TOEIC のリーディングセクションは、Part 5 短答穴埋め問題、Part 6 長文穴埋め問題及び Part 7 読解問題の3つのパートからなり、パート 5 及び 6 では文法力と語彙力が試される。ここでも、基本的な文法力及び語彙力が非常に重要となり、とりわけ中学英語総合力が高い学生は、高得点をマークすることが可能となることがこの相関関係からも明白である。

4. 3 中学英語総合力と TOEIC リスニングセクションスコアとの相関関係

次に、中学英語総合力と TOEIC リスニングセクションスコアとの相関関係をピアソン相関係数で検証すると、相関係数0.84と高い相関関係が認められる。これは、有意水準5%では、 p 値 = 0.0735 > 0.05 となり、有意な相関係数とはいえない。但し、有意水準10%では、有意といえるので、リーディングセクションスコアほどの強い相関関係は認められないものの、一定程度の相関関係はあるとみてよいだろう。

4. 4 まとめ

TOEIC 試験対策における中学英語の重要性は、すでに多くの論者が主張してきている。例えば、小石 (2012) は言う。「TOEIC テストは、中学校で習う英文法が完全に身につくさえいけば、後は語彙の補強などで解ける問題がかなりあります。」(p.3) と。また、太田 (2013) は、「中学校で使用する英語教科書には、英語の基本事項がすべて効率よく配列されていますので、完全に習得できれば TOEIC テスト600点は十分に突破できます。」(p.6) と述べる。さらに、太田は自身の主催する「市川英語村塾」及び「千葉商科大学トワイライト・コース TOEIC 講座」等において、「旧中学英語検定版コロンブス1・2・3年」を基本テキストとして、「音をひたすら聞き、音読そして筆写」することによって、多くの600点突破の学習者を生み出している。(太田、2010) そしてトップレベルの生徒であれば、「中学3年分を短期間で完全に暗唱し、TOEIC600点を突破する」(太田、2010、p.16) という。金谷他 (2015) も、中学英文法の定着が英会話や TOEIC にも必要であると主張し、中学レベルの「文法をきちんと身につけることで、英会話は8割の会話が、TOEIC スコアでは600点取得が可能に」(p.21) となると述べる。さらに、バーナード (2014) は、「TOEIC には中学英文法の知識だけで正解できる問題がたくさん出題されています。」(p.7) としている。TOEIC は、ETS (2015) によると、一般的なまたはビジネスでのコミュニケーションの場面で必要とされる英語力を測定するテストである。従って、TOEFL に比較して、より基礎的な文法力を測る問題が多く配置されているから、中学英語の基礎的な文法力がとりわけ重要性を増すことになるものと思われる。この

ことが、担当した英語必修クラスの本研究の対象者のデータからも、実証された形となった。新学習指導要領に掲げられている「コミュニケーション」重視の英語教育のなかにあっても、中学英語に代表される英語基礎文法の大切さはいささかも変わらないことを本データが示しているともいえよう。効果的なコミュニケーションを行うためには、基礎的な文法を習得することは不可欠といえる。これについて、佐藤（2015）は、コミュニケーション中心の流れの中で、文法学習を嫌い、そのせいでいつまでたっても英語が話せるようにならないという皮肉な状況が生まれていると懸念している。また、金谷他（2015）は言う。「コミュニケーションの時代だから、決まり文句を流暢に言えればよいというような漫然とした考えが、一般の人にも、そして英語教師の中にも広く存在する。そうした考えを廃して、文法の獲得を手助けするように心がける必要がある」（p.138）と。Brown（2007）によると、そもそも「コミュニケーション能力」（communicative competence）という言葉は、Hymes（1972）によって生み出され、Canal & Swain（1980）によって、文法的能力（grammatical competence）、談話能力（discourse competence）、社会言語能力（sociolinguistic competence）、方略的言語能力（strategic competence）の4つの能力から構成されると定義されているという。この原点に立ち戻り、本学短期大学の英語授業においても、コミュニケーション能力における文法的能力の重要性を再認識すべきではなからうか。

5. 分析結果を踏まえて

5. 1 文法項目別分析結果を踏まえて

金谷他（2015）は、独自テスト Billy's Test により、中学生の名詞把握力を測っている。それによると、「卒業時の名詞句理解度は30%ほどである」（p.145）という。そして、中学で習ったことは、卒業時点では定着していることはあまりないと結論付ける。今回の短期大学部生対象の本研究では、その後高校3年間及び短期大学約9ヶ月を経た時点においても、定着度が低い文法項目も多くあることが判明した。例えば、間接疑問文、後置修飾、比較表現といった正答率60%未満の3項目は、その典型的な例である。また、可算名詞と不可算名詞の区別や、可算名詞は冠詞をつけるか、複数形にする必要があることなど、きわめて基本的な事項も多くの学生が習得できていないことも留意すべきである。今回の分析結果を踏まえて、今後の授業の中でも、弱点項目に特に十分な説明や演習を盛り込んでいくなどの工夫を凝らし、授業計画を立てていく必要があるだろう。

5. 2 TOEFL スコアとの相関分析を踏まえて

アカデミックな高度な英語力を測定する TOEFL においても、いかに基礎的な英語力として

の中学英語が大切であるかが改めて明らかになった。もちろん、中学英語力のみで高得点が望めるものではなく、それに加えて TOEFL に対応した語彙力、読解力なども必要となってくることは明らかであるが、その基礎としての文法を中心とした中学英語力の重要さは揺るがないのではないかと思う。

5. 3 TOEIC スコアとの相関分析を踏まえて

一般的な場面またはビジネスにおいて実践的なコミュニケーションができる英語力の有無を測る TOEIC においては、これまでも多くの論者が主張してきた中学英語の重要性が、今回のデータ分析でより明確になった。一部の論者が主張する600点という得点獲得との関係は、今回のデータからはわからないものの、高得点獲得のためには、その対策として中学英語力を習得することが重要な鍵をにぎることは、明確になった。今後の授業展開の中で実際に問題演習を行う際も、中学文法力で解ける問題については、そのことをその都度学習者に明示的に示していくことも必要となろう。

6. 最後に

本研究は、対象者は筆者が担当した3クラス（TOEFL 受験者68名、TOEIC 受験者31名）と少なく、今回の分析結果を本学短期大学生全体の傾向として一般化することは到底できない。また、「中学英語力テスト」は、中学教科書を参考に作成したものであるが、中学英文法項目の定着度や総合力を測るテストとしての妥当性・信憑性の検証は行っておらず、正確に中学英語力を測定できるかといった検証が必要である。このような課題を十分に踏まえた上で、本研究を通して明らかになった本学短期大学部生の中学英語力の弱点を克服し、TOEFL・TOEIC スコアの向上に効果的に資することが出来るような授業をデザインして行く必要があると考える。コミュニケーションなアプローチを重視しつつも、同時に中学英語に代表される基礎的な文法力の地道な構築をも常に念頭に置いた授業展開が求められるのである。多くの大学で、中学英語程度の基礎力なくしては、大学レベルの英語力の習得は困難であるとの考えに立ち、リメディアル教育が実施されている。本学においても制度的には、習熟度別英語クラスや「学習支援センター」による広義のリメディアル教育が既になされていると言えよう。しかしながら、今回対象とした習熟度別34クラスの内の英9、10、11クラスという上位の下位から中位の上位クラスにおいても、中学英語力が十分に身につけていない学生が多く見られたという事実を踏まえると、日々の授業の中で英語基礎力の強化、底上げに尚一層注力していき、それを TOEFL・TOEIC スコアの伸長につなげていくことが求められるのである。

参考文献

- Brown, H.D. (2007). *Principles of language learning and teaching*. White Plains, NY: Pearson Education.
- Canal, M., & Swain, M. (1980). Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*, 1, 1-47. Retrieved from: <http://ibatefl.com/wp-content/uploads/2012/08/CLT-Canale-Swain.pdf>
- Hymes, D. (1972). On communicative competence. In J. Pride & J. Holmes (Eds.), *Sociolinguistics*. Harmondsworth, UK: Penguin Books.
- アルク教育総合研究所監修、金谷憲編著 『中学英文法で大学英語入試は8割解ける!』アルク、2015年。
- Educational Testing Service 『TOEIC テスト新公式問題集 Vol.6』国際ビジネスコミュニケーション協会、2015年。
- 太田信雄 「TOEIC と TOEFL から見た日本の外国語教育」『千葉商科大学紀要』第34巻、第3号 (21)、p.21-57、1996年。
- 「英語の学び方・教え方」『千葉商科大学紀要』第48巻、第1号 (1)、2010年11-19。Retrieved from: http://ci.nii.ac.jp/els/110007701475.pdf?id=ART0009507829&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1455770563&cp=
- 『中学英語が効く! TOEIC テスト600点突破! 音読カード』第三書房、2013年。
- 笠島準一他著 『NEW HORIZEN English Course3』東京書籍、2008年。
- 金谷憲・小林美音・告かおり・賛田悠・羽山恵 『中学英語いつ卒業? 中学生の主語把握プロセス』三省堂、2015年。
- クリストファー・バーナード 『新 TOEIC テスト 中学英語で730点突破』大和書房、2014年。
- 小石裕子 『新 TOEIC テスト 中学英文法で600点!』アルク、2012年。
- 斉藤兆史 『日本人に一番合った英語学習法』祥伝社、2000年。
- 佐藤洋一 『第二言語習得理論に基づく、もっとも効率的な英語学習法』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2015年。
- 佐藤臨太郎・笠原究・古賀功 『日本人学習者に合った効果的英語教授法入門』明治図書出版、2015年。
- 上智大学 CLT プロジェクト 『コミュニケーション型英語教育を考える』アルク、2014年。
- 鳥飼久美子 『TOEFL・TOEIC と日本人の英語力』講談社、2002年。
- 中高英明 『TOEIC テスト満点ビジネスマンはなぜ「中学英語」を大切にするのか』実業之日本社、2014年。
- 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版、2011年
- 山田雄一郎・大津由紀雄・斉藤兆史著 『英語が使える日本人は育つのか?』小学校英語から大学英語までを検証する』岩波書店、2009年。

短期大学部生の中学英語力及びそれと TOEFL・TOEIC スコアとの相関関係に関わる分析

表 6 中学英語力テスト内容及び正答率

①文法項目正答率＝中学文法力正答率 ②英語訳正答率＝中学英語総合力正答率 (単位%)

文法項目及び設問	①文法項目 正答率	②英語訳 正答率	文法項目及び設問	①文法項目 正答率	②英語訳 正答率
〈be 動詞 (現在形、過去形)〉 1. 私は大学生です。 I am a college (university) student.	100	47	〈形容詞・副詞〉 26. 英語は面白い。 English is interesting.	99	99
2. あなたはアメリカ出身ですか? Are you from America?	96	96	27. 私は一生懸命に勉強する。 I study hard.	94	91
3. 私は 5 年前中学生でした。 I was a junior high school student five years ago.	94	43	26-27 平均	97	95
1-3 平均	97	62	〈比較表現〉 28. Godzilla は、King Kong より強い。 Godzilla is stronger than King Kong.	87	87
〈一般動詞 (現在形)〉 4. 私は野球が好きです。 I like a baseball.	100	88	29. Godzilla は全ての怪獣の中で最も強い。 Godzilla is the strongest of all monsters.	21	13
5. 彼は日本が好きです。 He likes Japan.	96	94	30. それらは鳥と同じくらい高く飛ぶ。 They fly as high as a bird.	53	29
6. Mary は日本語を話しません。 Mary does not speak Japanese.	79	79	28-30 平均	54	43
4-6 平均	92	87	〈不定詞〉 31. 私はゲームをするためにコンピューターを使う。 I use a computer to play games.	87	37
〈一般動詞 (過去形)〉 7. 私は昨日その橋を歩いて渡った。 I walked across the bridge yesterday.	31	21	32. 私にはすべき仕事がたくさんある。 I have a lot of work to do.	54	35
8. あなたは昨日英語を勉強しましたか? Did you study English yesterday?	90	85	33. 私はうちわの使い方を知っている。 I know how to use a fan.	81	79
7-8 平均	61	53	34. 私が日本語を理解することはむずかしい。 It is difficult for me to understand Japanese.	75	74
〈進行形〉 9. 彼は今何をしていますか? What is he doing now?	76	75	31-34 平均	74	56
10. 彼は今泳いでいるところです。 He is swimming (now).	96	93	〈動名詞〉 35. 私はこの詩を書き終えた。 I finished writing this poem.	75	63
11. 私はそのとき 1 冊の本を読んでいるところでした。 I was reading a book then (at that time).	85	69	36. クリスマスソングを歌うことは楽しい。 Singing Christmas songs is fun.	75	53
9-11 平均	86	79	35-36 平均	75	58
〈冠詞〉 12. 私はギターを弾きます。 I play the guitar.	74	40	〈受身〉 37. 点字は多くの人々によって使用されている。 Braille is used by many people.	75	3
13-1. 私は 5 年前中学生でした。 I was a junior high school student five years ago.	53	-	37 平均	75	3
13-2. それは 1 匹の動物です。 It is an animal.	74	65	〈現在完了形〉 38. 彼女は日本に 5 年間住んでいる。 She has lived in Japan for five years.	62	54
12-13 平均	67	53	39. あなたはアメリカに行ったことがありますか? Have you been to America (before)?	75	72
〈代名詞〉 14. 彼は私たちの先生です。 He is our teacher.	91	91	40. あなたは宿題をもう終えましたか? Have you finished your homework yet?	74	47
15. その鉛筆は私のものです。 The pencil is mine.	96	84	38-40 平均	70	58
16. あなたは彼を知っていますか? Do you know him?	99	99	〈後置修飾〉 41. これは 70 年前に撮られた 1 枚の写真です。 This is a picture taken about 70 years ago.	32	29
14-16 平均	95	91	42. これは私がアメリカで買った本です。 This is a book I bought in the United States.	66	62
〈接続詞〉 17. もしあなたが行けるなら、私に電話をかけてください。 If you can go, please call me.	93	66	41-42 平均	49	46
18. 私はその計画に反対です。なぜならば我々は我々の公園を必要とするからです。 I am against the plan because we need our parks.	66	21	〈関係代名詞〉 43. トムはこの本を書いた科学者です。 Tom is the scientist who wrote this book.	76	32
17-18 平均	80	44	44. これは我々を幸せにする映画です。 This is a movie that (which) makes us happy.	66	38
〈未来表現〉 19. 私は明日琵琶湖を訪れる予定である。 I am going to visit Lake Biwa tomorrow.	81	66	45. これは彼女が昨年書いた本です。 This is a book that she wrote last year.	75	50
20. 私はあなたに明日彼女の写真を見せてあげよう。 I will show you her picture tomorrow.	79	65	43-45 平均	72	40
19-20 平均	80	66	〈疑問詞〉 46. あなたは朝食に何を食べますか? What do you eat for breakfast?	79	29
〈助動詞〉 21. 我々は今日その試合を見ることが出来る。 We can see the game today.	96	84	47. あなたは CD を何枚持っていますか? How many CDs do you have?	74	69
22. あなたは英語を話すことができますか? Can you speak English?	96	94	48. これは誰の鞆ですか? Whose bag is this?	43	43
23. 私は今英語を勉強しなければならぬ。 I have to study English.	99	94	46-48 平均	65	47
24. あなたはあなたのお母さんを助けてあげなければならぬ。 You must help your mother.	93	91	〈直接目的語と間接目的語〉 49. あなたのパスポートをお見せください。 Show me your passport, please.	78	76
25. あなたは食べ過ぎてはいけません。 You must not eat too much.	65	40	49 平均	78	76
21-25 平均	90	81	〈間接疑問文〉 50. 私はあなたの意味するところが分らない。 I do not know what you mean.	46	46
			50 平均	46	46
			全体平均	75	61

佟 元 弘 文

(くきもと・ひろふみ 短期大学部教授)